



やぐもだい

令和8年6月30日
調布市立八雲台小学校
校長 石川 淳
<https://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



知りたい時

校長 石川 淳

子どもと一緒にいると「なんで」「どうして」と、問いが連続することがあります。ひとつのこたえに、次々と疑問がわいてきます。また、「なんで地球はまわっているの」「どうして生き物は死んじゃうの」など、大人でも即答するのは難しい問いがあり、びっくりすることもあります。お子様とのやり取りで、このような経験をされた保護者の方は少なくないと思います。

子どもが問いを発するのは、気まぐれのように見えても知的好奇心が高まっているためです。問われた時、「今忙しいから自分で調べて」「大人になればわかる」「そんなことより早くしなさい」という対応は、子どもが成長する芽をつみとってしまうことになりかねません。

子どもの「なぜ」という疑問と「なるほど」という納得は、セットとすることが大切です。疑問から納得への回路を強化することで、自ら課題をみつけて、解決する手段を自ら探し、実際に行動する力になり、一生の財産になります。

こたえをすぐに大人に聞いてしまっただけでは、依頼心が強くなるのではと思われる方もあるかもしれません。しかし子どもの疑問➡大人への問い➡納得は、ずっとそのままというわけではなく、物事の前後関係や、調べ方など、解決への道筋をうっすらとでも見当をつけられるようになると、自分ひとりでも疑問を解決する方向に向かっていきます。疑問と納得のセットが身に付いたからです。

子どもが率直に、大人に問いを発する時期は限られています。知りたい時が伸びるときです。子どもの問いに大人も一緒になって考えを巡らすなど、ていねいに対応していくことは、素晴らしい投資になります。

1学期の登校も残り3週間となりました。スポーツフェスティバルや校外に出での学習など、全校規模・学年規模の活動も実施してきましたが、そんな中でも1時間、1時間の学習を大切に、子どもたちの問いにしっかり対応して時期を逃さないようにしていきます。

【 注 対応：相手や状況に応じて事をする事
対応：相手になってうけこたえすること (広辞苑) 】

地域連携の紹介

○農家見学 6月17日(水)

学区内の農家のご協力のもと、2年生が農家見学に行き、たくさんのことを教えていただきました。

○調布市議会議場見学 6月18日(木)

宮本市議会議長のお招きにより、6年生が市議会議場を見学しました。

○「漢字検定」の募集 7月

地域学校協働本部主催の漢字検定の募集があります。(3年生・4年生)